

藻類・貝類養殖の普及促進

(ヒジキ関係；(社)全国豊かな海づくり協会，漁村研究実践活動助成事業)

水産技術開発センター 主任水産業専門普及指導員

【背景・目的】

本県の漁業は，資源の減少傾向，魚価の低迷，燃油資材・餌料価格の高騰など，厳しい経営環境にあり，漁業担い手の減少が続いている。

このため，沿岸漁場の高度利用や収益性の高い漁業の導入等について調査研究を進めるとともに，導入が可能な技術の実証試験を行うなど，生産現場への普及定着を進めることにより，魅力ある漁業の創出と漁業担い手の確保育成を図る。

【普及内容・特徴】

1 ヒジキ養殖技術の普及

- (1) 先進地の養殖技術を調査研究し，普及指導員等に情報提供した。
- (2) 県全体の養殖技術研修会を開催した。(2回)
- (3) 鹿児島湾地域における試験養殖を実施した。
- (4) 水産技術開発センター(以下，「センター」という。)において，種苗の大量培養試験を実施した。

2 ワカメ養殖技術の再点検，種苗供給体制の再構築

- (1) 普及指導員を通じ，県内の養殖実態調査を実施した。
- (2) センターにおいて，流水式の種苗培養試験を実施した。

3 貝類養殖等の調査研究

ヒオウギガイやマガキ，イワガキ等の貝類，トサカノリ等の藻類養殖技術について，文献やインターネットによる調査を実施した。

【成果・活用】

1 ヒジキ養殖技術の普及

鹿児島湾の8漁協において，ヒジキの試験養殖を実施した結果，生産目標の10kg/mを達成した漁場もあったが，施設構造，養殖密度，収穫時期など，一定の収穫量や品質を確保する上で多くの課題が残った。

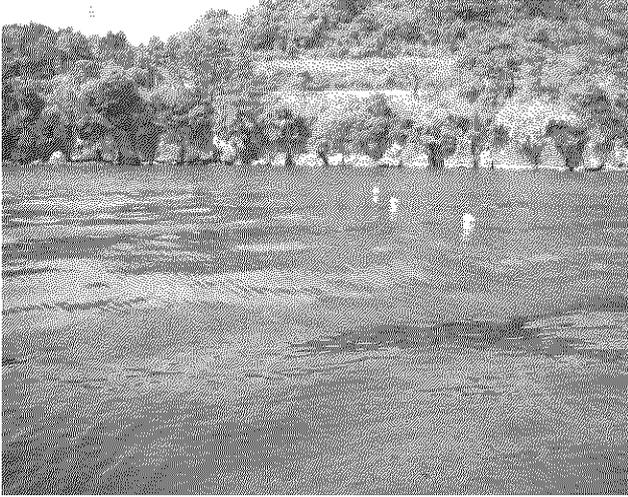
また，独自のルートで調査した中国式の種苗培養試験を実施した結果，45×200cmの培養シートから，養殖ロープ100m分の種苗を確保できる可能性が得られた。

2 ワカメ養殖技術の再点検，種苗供給体制の再構築

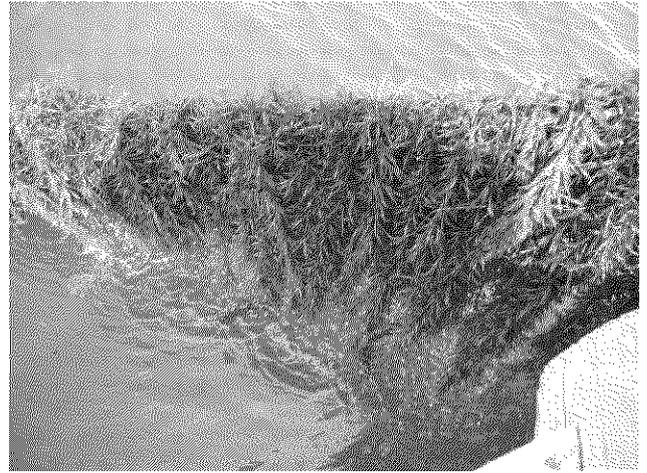
ワカメ養殖は，現在，県内25漁場で49経営体が営んでおり，再点検の結果，種苗供給元である漁業者の種苗培養技術が安定していないため，生産量に大きく影響していることが判明した。このため，センター内で種苗培養技術を再現してマニュアル化を行い，種苗供給元の漁業者に対する技術指導など，次年度の活動に備えた。

3 貝類養殖等の調査研究

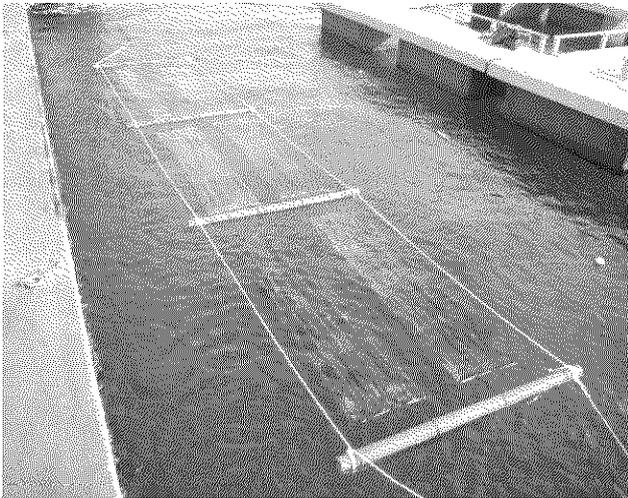
ヒオウギガイやマガキ，イワガキ等の貝類については，種苗を安定確保するための種苗生産機関を調べ，既存の養殖業者等にも紹介した。



ヒジキ養殖試験（展開風景）



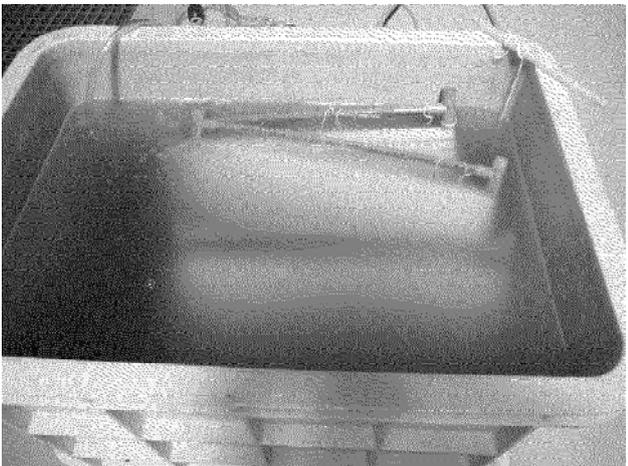
ヒジキ養殖試験（養殖ヒジキ）



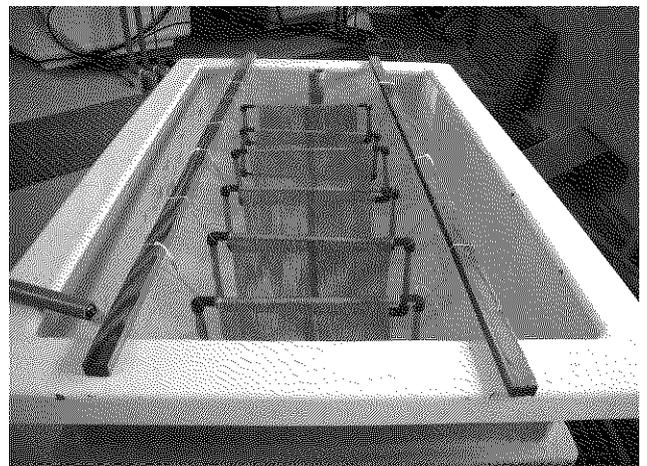
ヒジキ種苗培養試験（海面培養）



ヒジキ種苗培養試験（ヒジキ種苗）



ワカメ種苗培養試験（種付け）



ワカメ種苗培養試験（培養）